

街場の就活論 vol.25

～新卒採用とキャリア教育に関するハナシ～

だん あそぶ
団 遊

現役バリバリ就活生のつぶやきから

私が代表をつとめるアソブロック株式会社では、現在 2017 年春入社の学生に向けて「コンビ採用」という採用活動を展開しています。これは学生にコンビで応募してもらい、コンビで選考し、コンビに対して内定を出すというものです。つまりひとつ内定を出すと二人採用することになります。vol.24 にその狙いなどを書きました。

現在通算で 100 コンビほどが受験し、うち 1 コンビに内々定を出しました。今回はその選考過程で出会ったある学生の就活への感想から、ぼくが思うことをツラツラと書いてみようと思います。その学生には三つの質問を投げかけました。「就活をされていて疑問に思うこと」「就活をされていて良かったと思うこと」「就活がもっとこうなればいいのに」です。まずは疑問に思うことからです。



SPI テストについて／友達と一緒にやっているという声や、他大学の子に解いてもらったという声を去年から聞きます。企業は知らないの？やっている意味あるの？

ちなみに SPI テストとは、リクルートのグループ会社が提供する学生の能力と適性を見るためのテストです。SPIにとどまらず、この手のテストはたくさんあります。最近では企業が受検会場と時間を指定し、そこで受検してもらうことで公平性を担保しようとするケースも多いですが、自宅 web 受検の形式もあり、疑問が湧いたのと思います。この手のテストはあくまで選考の参考程度ですから、企業側もこれまでの流れで受けてもらっていることも多いと思います。堂々と不正がまかり通るということは、裏を返せば、企業はそれほど結果を重視していない、ということでしょう。

どこでもいいから出しまくる友人／70社エントリーシートを出して半分も通ってないという友人がいます。人は人でそういうのもやり方としてはひとつだと思うけど、もっと通るような方法もしくは、絞り方みたいなんがあったんじゃないかなあと思います。やばいやばい、しんどい、疲れたって言っています。

エントリーシートを出しまくっている人のエントリーシートは見て分かる、ということを実外理解していない学生が多いです。もちろん学生も同じエントリーシートは出さないのですが、いくつか雛型があり、要素の使いまわしと、一部オリジナリティある表記を上手く絡めて作成してきます。エントリーシートを出しまくるということは、就職活動の軸が決まっていないこと表れであり、そもそも合格可能性が低い人たちです。

大学受験で数を撃っても当たらないのと同じで、就職活動も数を撃っても当たりません。例えば内定を5つもらった人がいたとして、その彼・彼女の受験社数を聞いてみても、それほど多くはないと思います。狙い球を絞らないと、打率は上がりません。たまにイチローのように来た球をすべてヒットに出来る人もいますが、そういう人は就職活動の天才です。その才能は、できれば別のことに使うべきだとも思いますが、大学内では、得てしてそういう天才が「就活とは」を語ります。



次に就活をやっているいいなと思う事を聞きました。

自分が好きな企画や、広告を仕事としている人と面接で話が出来るのが何より楽しい。

素敵なことです。ちなみに「こんな風に会いたい人にどんどん遠慮なく会わせてもらえる時期は就職活動の時だから目一杯活用するといいよ」とアドバイスしている人をよく見かけますが、社会人になってからも、会いたい人に「会いたい」と言えばたいがい会うことができます。社会人になると「お忙しい人たちに、そう簡単に会いたいなど言うべきではない」という遠慮が個々人の中に生まれるだけのことです。しかし社会人になって伸びる人は、無遠慮にどんどん「会いに行ける」人たちであることが多いように思います。

大人でも、目がキラキラしている人に会えるのはいい刺激です。自分もこんな大人になりたいと思います。

就職活動中に会う人は、人事が厳選した「目がキラキラした人たち」なので鵜呑みにはできません。ブラック企業と呼ばれる会社にも、その中で目をキラキラ輝かせて働いている

人が必ずいます。ブラック企業とは、多くの人にとってツライ会社（法令違反は別の問題として）のことで、全員がツライ思いをする会社ではありません。逆を言えば、優良企業と言われる会社の中にも、目が死んでいる人は必ずいます。話を聞いていて特におもしろいのは、優良企業と言われる会社で働く目の死んでいる人たちです。そこには「働くとは何か」という問いかけが隠れていることが多いからです。



最後に、就活がもっとこうなればいいのにを聞きました。

お金／東京にでてくるのに、お金がかかる。5社受けるとして毎回、それぞれの選考で東京にでてくるとしても、1社4回でてきて、5社で20回。往復の夜行バスで、1万円。夜行バスでも20万円かかるということです。アルバイトでも厳しい学生、親には頼めない学生たくさんいると思いました。正直夜行バスで連続で東京来るとやっぱり体調良くはないですし。週1で東京ではなく、5日間連続で面接とかがあってもいいなと思いました。

関西の私大などは特に大変だと思います。というのも、例えば北海道や九州といった遠隔地の場合は、東京でシェアハウスをして就職活動を乗り切るなど、節約術が引き継がれていることが多いからです。また、大学側も地元企業への就職がメインにならないことを理解しているので、大学の東京事務所で仮眠ができたりと、サポート体制を組んでいることも多いのです。一方で関西の大学の場合は、地元企業も多く、東京も日帰り距離のため、金銭課題が就活問題の中心に来にくいのです。この学生が言うように、企業の説明会や面接も、インターネットのホテル予約のように空き日程表が掲示され、自分で好きに組めるようになると良いのでしょう。そんな風に、もうすぐなる気がします。

親との関係／小さい会社は親に説明したときに親の反応が、少しうーんって感じになってしまうのがとても心苦しいです。自分の好きな道に進みなさいとはいうけれど、大きい会社の方が良い安心という、昔の考え方みたいなものがあるみたいで、なんか説得というかわまく良さを伝えられるものがあればいいのになと、思います。ネットではないツールで。男の子の友人でいえば、アパレル業界が第一志望らしいですが、どうしても親は反対だそうです。反対まではいかないけれど、うーんって感じみたいです。できたら、大きい会社、商社や銀行など。親心としては、22歳になり責任を自分で持たないといけない年齢だけれどもやっぱり子供だし心配なところと、昔からの考え方みたいなものがあるのだなろうなと思います。

「子どもが決めたことは、素直に認めてやったらいいんや！ 親が口を出してもろくなことにならん」と考える人が大半でしょうし、ぼくもそう思いますが、実際はうーんってな

る気持ちもわかります。それは例えば「お父さん、ちょっとニジェール（アフリカ大陸にあります）行ってくるね」と言われた時に「うーん」となるのと同じです。知らないことに無責任に「いいんじゃないか」と言えないのは、ある意味普通で当然の反応です。基本的にどの親も子どものことを信じたいと思っています。だからあと一押し、「信じた道で頑張れ」と言わせるための素材集めが必要です。大手の内定が親受けがいいのは、親が知っているから、ただそれだけです。でも数年前まで、あの楽天でさえ「いかにして親御さんの信頼を集めるか」が採用課題で、三木谷さんが親に向けてスピーチをする内定パーティーが開催されていたと聞きます。

内定企業が信頼の素材集めに積極加担するケースもあれば、そうでないケースもありますが、少子化世代のいまだき学生の就活には、親との関係性も自分で整理する力も求められているのかもしれませんが、ひとつ間違いないことは、親の言うとおりに道を決めて将来後悔することがあったとしても、それはすべて自分のせいであり、親のせいではないということです。つまりそこが、学生と社会人の大きな差なのでしょう。最近は企業の採用意欲も高まり売り手市場化し、一時期よりも就活は楽になったという声も聞きますが、いつの時代も就活をする学生はタイヘンですね。

文／だん・あそぶ

「社会課題を創造的に解決する」をモットーに様々なプロジェクトを手がける。元は雑誌の編集者。立命館アジア太平洋大学では「街場のキャリア論」と題して、インターンシップを軸（実習）にそれぞれの人生のビジョンを考えるキャリアの授業を展開している。